



The Japan Opera Foundation 公益財団法人 日本オペラ振興会

藤原歌劇団・日本オペラ協会

日本オペラ協会 天守物語 フォトアーカイブ

2012年の「高野聖」に続く泉鏡花シリーズ第2回として、2月に水野修孝作曲の名作「天守物語」をダブル・キャストで新国立劇場中劇場で公演しました。当協会にとって7演目となった今回は、演出を気鋭の岩田達宗に託したニュープロダクションで取り上げ、これまでの公演とはまた違った舞台創りで好評を博しました。主役の天守夫人・富姫には09年公演で共に当役を演じた腰越満美と川越塔子を再起用、前回からさらに踏み込んだ役づくりで存在感を示しました。



©公益財団法人日本オペラ振興会
幕開き 薄（鳥木弥生）と侍女たち



©公益財団法人日本オペラ振興会
手土産を披露する亀姫一行
前列は舌長姥（二渡加津子）と朱の盤坊（清水良一）、
奥は富姫（川越塔子）と亀姫（佐藤恵利）



©公益財団法人日本オペラ振興会
朱の盤坊（豊島雄一）のひょっとこ踊りの場面



©公益財団法人日本オペラ振興会
幻想的な富姫（腰越満美）と亀姫（佐藤美枝子）のつれ舞



©公益財団法人日本オペラ振興会
 亀姫の土産用に白鷹を用意した富姫（川越塔子）



©公益財団法人日本オペラ振興会
 天守に上がってきた図書之助（柴山昌宣）、奥は富姫（川越塔子）



©公益財団法人日本オペラ振興会
 図書之助(中鉢聡) に天守から去るよう命じる富姫（腰越満美）



©公益財団法人日本オペラ振興会
 再度天守に現れた図書之助（柴山昌宣）に兜を与える富姫（川越塔子）



©公益財団法人日本オペラ振興会
 共に盲目となり死を覚悟した図書之助（中鉢聡）と富姫（腰越満美）



©公益財団法人日本オペラ振興会
 桃六によって獅子頭の目が開き、二人の目も見えるようになったフィナーレ